

## 第60回 東日本実業団対抗駅伝競走大会

### 【出場結果】

実施日：11月3日(日・祝) 8時スタート

コース：埼玉県庁～熊谷スポーツ公園陸上競技場

総距離：7区間 76.9km チーム成績：3時間58分21秒 20/26位

|          |   |           |        |        |        |
|----------|---|-----------|--------|--------|--------|
| 出場者・リザルト | ： | 1区 11.6km | 西沢 晃祐  | 20/26位 | 34分55秒 |
|          |   | 2区 8.0km  | 佐野 雅治  | 20/26位 | 24分22秒 |
|          |   | 3区 16.5km | 親崎 達朗  | 19/26位 | 51分05秒 |
|          |   | 4区 9.5km  | 加藤 平   | 19/26位 | 29分05秒 |
|          |   | 5区 7.8km  | 八木沢 直也 | 20/26位 | 24分56秒 |
|          |   | 6区 10.6km | 小原 大輔  | 21/26位 | 33分20秒 |
|          |   | 7区 12.9km | 石原 洸   | 22/26位 | 40分38秒 |

### 【レポート】

今年の東日本実業団駅伝は、旧中山道を南下するコースは変わらないものの、第2中継所がこれまでの鴻巣駅入口から桶川市にあるマメトラショッピングセンター前に距離変更となり、従来最長区間であった2区が8kmと短くなったことで、外国人選手が走るインターナショナル区間に変更され、代わって3区が16.5kmの最長区間となりました。

レース当日は、例年強風に悩まされる事が多かったところ、今年は曇り空の中、ほぼ無風の絶好のコンディションで、ニューイヤー駅伝出場12枠を争うレースがスタートしました。



西沢選手を含む先頭集団が一斉にスタート



## 1区 西沢選手

1区は駅伝の流れを左右する重要区間であり、今年は新人の西沢を起用しました。

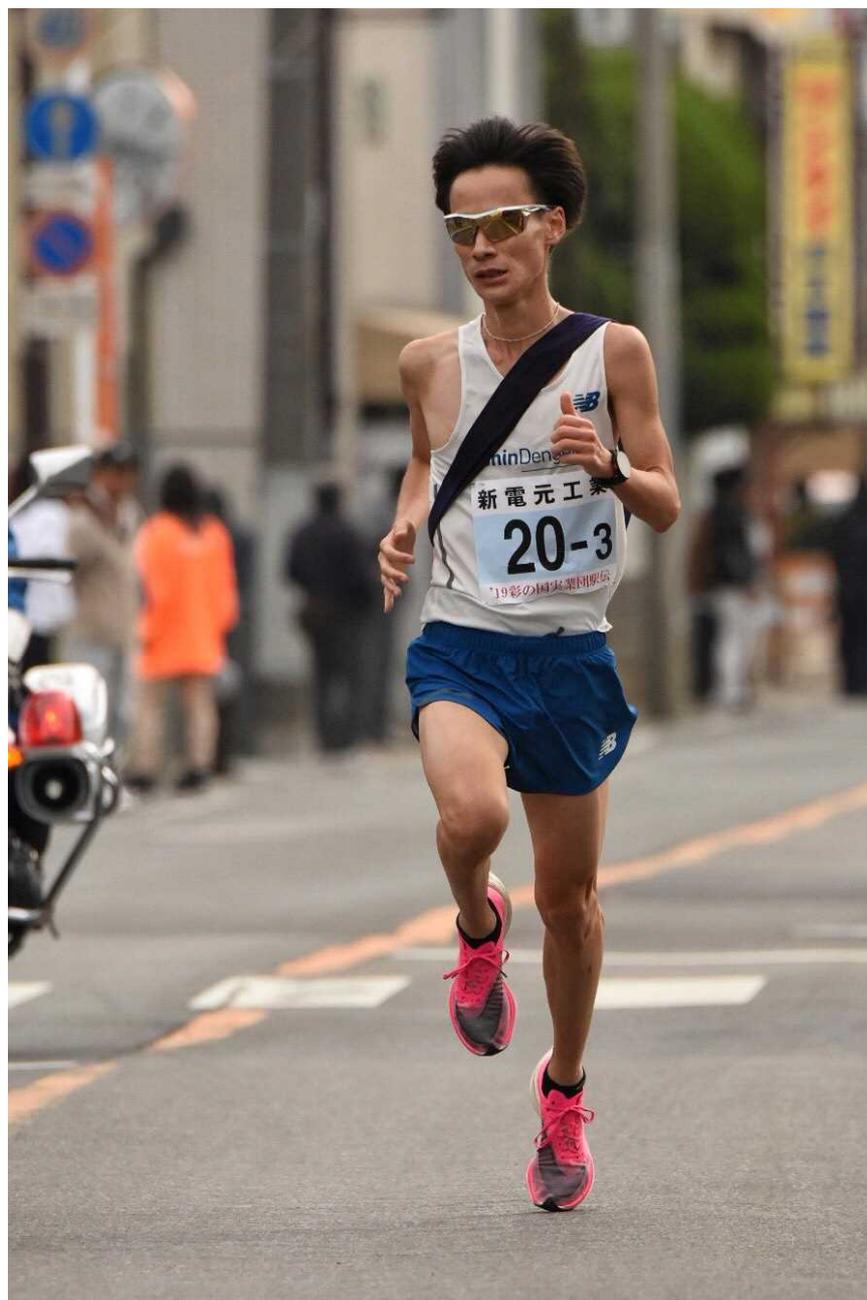
西沢は夏に故障があり、急ピッチでこの大会に照準を合わせてコンディションを整えてきたこともあり、必ずしも調子の良くない中で冷静にレースを進め、はじめの5kmを14分40秒で通過すると、先頭集団が更にペースを上げる中、後半の落ち込みを最低限にとどめるため、あえて先頭集団から離れて自身のペースを刻むことを選択し、大きなペースダウンもなく先頭から1分28秒差の20位で2区へ襷をつなぎました。



**2区 佐野選手**

**2区は今回から外国人選手が走るインターナショナル区間で距離は8kmと短く、当社はこの区間にスピードとパワーを持ち合わせる佐野を起用しました。**

**佐野も西沢と同様に、夏場に怪我をしてコンディション作りが難しいところでしたが、持ち前の調整力でこの大会に向けて準備し、2区に配置出来るまで調子に戻しており、1km3分前後のペースを確実に刻み、外国人選手が走る先頭とは距離を広げられたものの、彼らしい根性のある走りを披露し順位は20位のまま3区へ襷渡しました。**



## 3区 親崎選手

**3区は16.5kmの最長区間となるエース区間で、ここには抜群の安定感があるエース親崎を起用しました。**

**襷を受け取った時点で前後のチームともに大きく距離が離れており、終始単独走という難しい走りが要求されましたが、1km3分5秒前後のラップを確実に刻む冷静な走りで、襷を受け取った時点で2分近くあった前方のオープン参加の先行チームとの差を26秒まで詰めて4区へ襷を渡しました。**



**4区 加藤選手**

**4区は熊谷駅前を走る全7区間の中間区間となり、この区間には、単独走でも安定した力を発揮出来る加藤を起用しました。**

加藤は昨年度、故障等でなかなか継続した練習が詰めない時期がありましたが、今年は故障予防の為に自ら練習の強弱をしっかりとつけて練習が詰めていたため、自信を持っての起用で、そのスタッフの期待に応える安定した走りで1km3分前後のペースを刻み、前をいくオープン参加のチームを抜いて5区へ襷をつなぎました。



## 5区 八木沢選手

5区は2年間故障で試合から遠のいていた八木沢を起用しました。

秋に入ってから本格的な練習を再開しており、決して本調子ではなかったものの、ここまで襷をつないできた仲間のために、序盤から積極的な走りを披露しました。

現状で出せる力をフルに発揮しましたが、ここで先頭との差が10分となったため、僅か15秒足らず繰上げスタートとなってしまう、深谷駅前の第5中継所で待つ6区の小原には残念ながら襷をつなぐことが出来ませんでした。



**6区 小原選手**

襷は繰上げ用の白襷に代わり、6区を任された小原は一斉スタートという事もあり、集団でレースを進めることになりました。

本来であれば、ここから集団の主導権を握り、再度レースを優位に進めたかったところ、後半に動きが鈍くなり、集団から離れると歯止めが効かず、目標としていたタイムには及ばず、無人の第6中継所にゴールしました。



## 7区 石原選手

アンカーを任されたベテランの石原も一斉スタートの中で集団の後方に位置し、中盤以降のペースアップを意識してレースを進めました。

しかし、予定していた中盤以降のペースアップで集団を離し切れず、ラスト2km地点で逆に集団を形成していた選手にスパートを許し、引き離されながらも懸命に競技場のゴールを目指し、結果として1区から順位変動なく総合20位でゴールしました。



## 【総括】

今回、年間最大の目標に位置付ける東日本実業団駅伝を迎えるにあたり、年初より「1km 平均 3 分 5 秒切」を方針に掲げて日々の練習に精進してきました。

今までスタッフ主導で練習メニューを考えて実施するスタンスから、選手が自主的に考えたメニューを取り入れることで、選手一人ひとりの練習への取り組みに変化が現れ、チームとして成長を実感してのレース出場でした。

結果として、初めて 4 時間を切る 3 時間 58 分 21 秒のチーム新記録でゴールし、「1km 平均 3 分 5 秒切」は達成出来ませんでした。しかし、「1km 平均 3 分 5 秒台」で走ることが出来ました。これはチームとしての一つの形を表現出来たものであると評価します。

但し、今回ニューイヤー駅伝の出場枠 12 位チームとは 11 分 26 秒の差があり、この圧倒的な差を次年度以降、どのように縮めていくかが課題となり、それには駅伝序盤からレースの流れに乗ることが必須条件となります。これについては改めてチーム内で方針を整えて次戦を戦っていきたいと思います。

またこの大会をはじめに今年も駅伝シーズンに突入し、1 月 26 日には地元飯能での奥むさし駅伝、2 月 2 日には埼玉県駅伝と、県内で 2 つの駅伝が行われ、当社チームも出場を予定していますので、是非、これらの駅伝にも大勢の方に沿道より選手に対する熱いご声援をお願い致します。

最後になりますが、早朝より現地まで今大会の応援に駆けつけていただきました、大勢の皆様がこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。